第１学年　生活科学習指導案

場　所　中庭
児　童　男１８名　女１４名　計３２名
指導者　野　月　一　隼

１　単元名

つち！どろ！あそびたい！

２　単元の指導構想

学習指導要領
内容（6）身近な自然を利用したり，身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して，遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ，その面白さや自然の不思議さに気付くとともに，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。

子供の経験
幼児期において，砂場遊びや水遊びは誰もが経験している。また，それらを組み合わせて泥遊びを経験したことがある子供も多い。

子供の資質・能力（実態）
新しいことへの興味関心が高く，意欲をもって取り組んでいる。個人の活動には集中して取り組むが，自分の活動から抜け出せず，友達と関わり合いながら活動を工夫することがあまり見られない。

学習の系統性（学習前）
幼児期
身近な環境との関わり
・砂場遊び
・水遊び
１年　生活科「はるのくさばなあそび」
・　春の草花を使った遊びやものづくり

単元について
本単元は，土や泥を使った遊びを通して，活動するたびに土や泥の可能性を感じ，いろいろな遊びができること，友達と関わることで遊び方や楽しさが増えていくことに気付くことをねらいとしている。土は，幼少期から子供が触れてきた身近な材料であり，土の材質による粘度や触感の違い，水を加えることによる変化など様々な魅力がある学習材である。普段から触れているからこそ，改めて向き合うことで，遊び方を試行錯誤したり友達と関わったりしながら様々な気付きを獲得していくことができると考え，土を学習材に選んだ。授業においては，土や泥とじっくり関わることができる環境を構成し，自由に遊ぶ活動を取り入れていく。そして，子供自身が思いや願いをもとに，さらに創作したり遊んだりしていく中で，楽しさを実感し，友達と関わりながら気付きの質を高めていくことができると考える。

学習の系統性（学習後）
１年　生活科「たのしいあきいっぱい」
・　秋の自然を使ったおもちゃづくりや遊び
１年　生活科「ふゆをたのしもう」
・　雪を使った様々な遊び
２年　生活科「つくってあそぼう」
・　身近な物を使ったおもちゃや遊び作り

３　指導にあたって

自己の気付きの質を高める姿を育むために，その実現に向けて，以下のような手立てをとる。

視点１　『考えるための技法』を活用・発揮するカリキュラム・デザイン

＜深い学びの姿＞
活動がよりよくなった，楽しくなったと感じられたことが，土や泥の遊び方の工夫や友達との関わりによるものであることに気付いている姿

〔スタートカリキュラム〕
新しい友達と仲良くなったことと，いろいろな遊びをしていることを関連付けることで，仲良くなった理由を明らかにする。（なぜ，友達と仲良くなれたのかを問う。）

〔音楽科〕うたっておどってなかよくなろう
活動への満足感や達成感と，リズムや動きを合わせることを関連付けることで，気持ちの変化の理由を明らかにする。（なぜ楽しく踊ることができたのか理由を問う）

〔生活科〕
できたこと，楽しかったことと自分の活動を関連付けることで，できた，楽しかったことの理由を明らかにする。（なぜ，前よりうまくいったり楽しく活動できたりしたのかを問う。）

〔体育〕シュートボール
うまく点数を入れられるようになったことと，ゲームの間の作戦タイムで練習したことを関連付け，チーム技術が向上した理由を明らかにする。（どうしてうまく点数を入れることができたのかを問う。）

視点２　深い学びの実現に向かう単元構成

子供が，思いや願いをもとに対象と関わることを通して，自己の気付きの質を高めることができるように，次の手立てを講じる。

- ・　自分の作りたいものへの思いや願いをもち，連続的・発展的に対象と関わって活動できるように，対象の土や泥とじっくり関わることのできる場の設定と時間を確保する。
- ・　それぞれの気付きが関連した気付きへと質的に高まるように，指導計画に複数の材料や遊び方を試す，前時の活動や友達と自分の活動を比較するなどの思考方法を位置付け，支援に役立てる。

視点３　単位時間の考える活動の充実

単位時間ごとの目標を達成するために，次の手立てを講じる。

- ・　対象や友達と十分に関わることができるように，子供の思いや願いをもとに場を設定する。
- ・　個の気付きや思いを学級全体で共有し，活動をつなげたり発展させたりできるように，前時の活動の様子を写真で掲示する。
- ・　子供が思考方法を使って活動できるように，活動中の見取りをもとに，自分の思いや願いを達成するためには何が必要かを問い返す。また，自分の気付きの質が高まったことを自覚することができるように，遊び方や友達との関わり方で生まれた気付きを価値付ける。
- ・　活動が充実したことが遊びの工夫や友達との関わりによるものであることに気付くことができるように，楽しさの理由を問い返し，全体で共有する。
- ・　自分ができるようになったことに気付いたり，新たな思いをもつことができたりするように，対象と自分との関わりについての振り返りを促す。

４　単元の指導計画

（１）目標

- ・　土や泥で遊ぶ活動を通して，土ごとの違いや特徴に気付くことができる。【知識及び技能の基礎】
- ・　土や泥を使った活動がもっと楽しくなるように水の加え方を変えたり，土の種類を変えたりするなど，工夫して遊びを作ることができる。　【思考力，判断力，表現力等の基礎】
- ・　身近な材料を使って，みんなで楽しみながら遊びを創り出そうとする。【学びに向かう力，人間性等】

（２）評価規準

知識・技能の基礎	思考・判断・表現の基礎	主体的に学習に取り組む態度
①　土や泥を利用した遊びの面白さに気付いている。 ②　できるようになったことや楽しかったことと，遊び方の工夫，友達との関わり方等が関わっていることに気付いている。	①　自分のしたい活動にどのような土や泥を使えばよいか，比較したり工夫したりしている。 ②　友達と楽しく遊ぶための約束やルールを工夫しながら遊んでいる。	①　考えた遊びがもっと楽しくなるように，思いや願いをもって繰り返し活動している。 ②　自分や友達の遊びに興味をもち，友達と関わりながら遊びを創り出そうとしている。

（３）指導計画（６時間）

段階	主な学習活動	考えるための技法	指導の手立て	気付きの質	評価規準（評価方法）
問題の把握　第一次（一時間）	①　中庭の土で自由に遊ぶ。 ・穴をほってみよう。 ・こっちはさらさらしてるよ。 ・山ができた。トンネル作ろう。 ・かためてお団子にしたよ。 ②　経験をもとに，次にやりたい活動について話し合う。 ・お水があれば，どろんこ遊びができるね。 ・シャベルを使って，もっと深く土をほりたいな。	◇試す ・　固めたり散らしたりしながら，土のおもしろさに触れる。	・　活動の見通しをもつことができるように，何をして遊びたいか問う。 ・　気付きを自覚できるように，子供の活動に対してどうやってできたのか問い返しをする。	◇直感的な気付き 土を触るのは，楽しい。	・　土遊びを楽しみたいという思いや願いをもって，自由に楽しんで活動している。 【態①→発言，観察】

つちやどろでたのしくあそぼう

問題の追究　第二次（四時間）　本時３／４時間目	①　前時の振り返りをもとに，思いをもって遊ぶ。 ・どろ団子が作りたいな。 ・水を流して川にしよう。 ②　自分の思いや願いをもとに活動する。 ・じょうろで少しずつ水を流すとうまくいくよ。 ・紙コップに泥水入れるとコーヒーみたいになるね。 ・いろんな形を作って，お弁当にしよう。 ・お城に見えるには，上をとがらせるといいかな。 ③　友達と関わりながら活動する。 ・葉っぱが最後まで流れたら勝ちにしようかな。 ・両方からトンネルを掘って中で握手できるといいね。 ・どれだけ高いタワーが作れるか比べてみようよ。 ④　みんなで遊びを決めて活動する。 ・お城やタワーをつなげて，みんなで街を作りたいな。 ・お店屋さんもいっぱいできそう。	◇見通す ・　作りたい遊びや遊びに使うものを決める。 ◇比較する ・　友達の活動と比較し，それぞれのよさを認め合う。 ◇工夫する ・　比較して気付いたことをもとに工夫し，改良を加える。 ◇関連付ける ・　できたことや楽しさが増えたことととこれまでの工夫を関連付けて振り返る。	・　子供の思いや願いをもとに活動を始められるように，自分で材料を集める期間を確保したり，子供の要望に合わせた材料を用意したりする。 ※　②③の活動順を決めず，子供の思いや願いに沿って柔軟に対応する。 ・　友達との比較や材料を変えて試す等の思考方法を使って活動することができるように，どうしたらうまくできそうか問う。 ・　気付きを自覚できるように，どうやったらできたか（楽しくなったか）を問い，活動を価値付ける。 ・　お互いの活動を比較することで，工夫につなげることができるように，同じような遊びをしている子供同士の関わりを促す。	◇直感的な気付き 土にもいろいろな種類があるんだ。 ◇対象や良さや特徴に関する気付き 砂に水をかけるとしみこんでいくけれど，土だと沼みたいにたまっていくね。 ◇関係性や系統性に関する気付き みんなで一緒に遊んだり約束を決めたりすると楽しいね。	・　土や泥で遊ぶ楽しさに気付いている。【知①→観察，振り返り】 ・　もっと楽しくなる方法を考え，活動に工夫を加えている。【思①→観察，振り返り】 ・　自分の思いを達成するための遊びになるように，繰り返し試して活動している。【態①→発言，観察】 ・　活動の充実が遊びの工夫や友達との関わりによって生まれたことに気付いている。【知②→観察，振り返り】 ・　楽しく遊ぶための約束やルール，工夫などを友達に伝えながら遊んでいる。【思②→観察】
まとめ　第三次（一時間）	①　それぞれの遊びや活動の様子を紹介する。 ・一人で遊んでもおもしろかったけど，みんなで作るともっと大きくなって楽しくなった。 ②　自分や友達の作った遊びを振り返る。 ・ぼくの作ったどろ団子を見て，みんながすごいって言ってくれたことがうれしかった。	◇比較する ・　これまでの活動と比較し，どのようによくなったのかを捉える。	・　材料の使い方や遊び方に工夫を加えたことに気付くことができるように，どうして面白かったのかを問う。 ・　友達との関わりのよさを自覚できるように，どうして友達と遊ぶと楽しいかを問う。	◇自分との関わりに関する気付き 身近な土でも，友達と遊ぶともっと楽しくなった。他のものでもみんなで遊びたい。	・　友達と関わりながら，自分の遊びの楽しさを伝えている。【態②→観察，振り返りカード】

5　本時の指導計画

（１）目標（活用する「考えるための技法」関連付ける）

材料を工夫したり友達と関わったりしたことで，自分の遊びが楽しくなったことに気付くことができる。　【知識及び技能の基礎】

（２）評価規準

おおむね満足	努力を要する児童への支援
・　できるようになったことや楽しかったことと，作り方や遊び方の工夫，友達との関わり等が関連していることに気付いている。	・　活動が停滞している子供に友達との関わりを促すことで，楽しさに気付くことができるようにする。 ・　なぜ，活動が楽しくなってきたのかを問うことで，その理由を考えられるようにする。

（３）展開

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援（◇評価）	資料　等
導入（５分）	１　本時の学習への意欲を高める。 ・　どろ団子を作ったよ。今日はもっと固くきれいにしたいな。 ・　砂山はできたから，川を作って水を流したいな。 ２　本時の課題を確認する。 ［つちやどろでもっとたのしくあそぼう。］ ３　安全な遊び方や約束を確認する。	・　本時の課題へつながるように，前時の活動や楽しかった思いを写真を見ながら想起する。 ・　活動への意欲が高まるように，今日やってみたいことを問う。 ・　楽しく活動するためのルールを確認する。	・活動写真 ・ホワイトボード
展開（35分）	４　自分の遊びを工夫する。 〇想定される活動例１ 『遊び方の工夫』 どろ団子がうまく固まらない。 → 水の量を変えてみよう。／ちがう土を混ぜてみよう。 → どっちもちょうどいい量がありそうだ。丸め方にもひみつがあるのかな。 ⇒ 〇〇さんのは，とってもぴかぴかしている。どんな作り方か聞いてみよう。 〇想定される活動例２ 『友達との関わり』	・　子供の思いや願いに応じて，アイテムコーナーを設定しておく。 ・　活動に悩んでいる子供には，友達との関わりを促すことで，よさを取り入れられるようにする。 手立て①【個への問い返し】 ・　友達との比較や材料を変えて試す等の思考方法を使って活動することができるように，どうすればうまくできそうかを問う。 ・　子供の活動を価値付けることで気付きを自覚できるように，どうやったらうまくできたか（より楽しくなったか）を問う。	・水場 ・シャベル ・バケツ ・じょうろ ・紙コップ ・紙皿 ・画用紙 ・ペットボトル ※その他子供の要望に合わせて用意 ・見取り支援表
	前の時間に，川から葉っぱの船を流して遊んだら面白かった。 → だれが一番下まで葉っぱが流れるか競争しよう。／みんなでいろんなコースを作って，流しっこしようよ。 ⇒ 水の流し方でも進み方が違うぞ。コースの太さを変えてダムみたいにしたらどうなるんだろう。	どろんこでいろいろな形を作ったよ。 → きれいに詰めたらお弁当みたいに見えるか／私はどろんこジュースを作るから，一緒に並べよ ⇒ 色の違う土や砂を使ったら，きれいになるかな。葉っぱや枝も使ったら，もっと本物みたいに見えるかもしれない。	
	５　自分の考えた遊びや作ったものを紹介する。 ・　わたしはお城を作りました。前は，ただ高くしていたけど，友達が屋根をつけたらいいよって言ってくれました。一緒に作ったから，いろんな形のお城ができました。 ・　ぼくは，川を作って遊びました。砂の方は，水がしみこんでしまって流れませんでした。土の方は上手に葉っぱが流れていきました。	手立て②【一斉での話し合い】 ・　自分の考えた工夫や友達との関わりがあることに気付くことができるように，楽しく活動できた理由を問う。 ・　個々の気付きを広げることができるように，うまくできたことや楽しかったことのつながりを可視化する。	・ホワイトボード
まとめ（５分）	６　本時の遊びや活動をもとに楽しく遊べたかを振り返り，次時の活動への見通しをもつ。 ・　〇〇さんたちみたいに，友達と大きなダムを作ってみたい。 ・　〇〇さんと一緒に作ったお弁当で，いろんな人とお店屋さんごっこをしてみたい。	**◇　材料を工夫したり友達と関わったりしたことで，自分の遊びが楽しくなったことに気付いている。** **【知　観察・発言】** ・　思いや願いをもとに次の活動につなげることができるように，みんなで何がしたいかを子供に問う。	